

▶正月堂の修正会 (島ヶ原)
▼カギヒキ (西山)



市長の伊賀じまん

—福を呼ぶ習わし—



気分も新たに新年を迎えられたことと思います。さて、新しい年は誰もが幸せなものにしたいと思うものではないでしょうか。伊賀には今でも新年の幸せを願う行事や風習が伝わっています。

皆さんは、「福丸呼び(福丸こっこ)」をご存じでしょうか。これは、大晦日に門口に出てたき火をしながら「福丸こっこ」「福丸来い」などと唱え、福の神を家の中まで招き入れて戸を閉め、新しい年の福を逃さないようにしようという行事です。伊賀の方言で犬のことを「狗子」と言います。「福丸」は犬だと言われ、「福丸こっこ」が音の連想から「福丸という犬」と理解されるようになったのかもしれませんが。

ところで、家の外に出て火をたき、何かを迎え入れるということとお盆に似ていますよね。先祖を迎えるお盆と同様に、大晦日の福丸呼びもまた私たちを見守ってくれる先祖(福)を呼ぶという行事として伝わっているのかもしれませんが。

もうひとつ、福を呼ぶ行事に「カギヒキ」があり

ます。正月に山で鍵の形をした枝をとって来て、神社の境内などに張り渡した注連縄しめなわに引っかけて、かけ声をかけながら引っ張ります。このときのかけ声は地域によって違いますが、「西の国の糸綿、東の国の銭金、みんなこちらに引き寄せよ」など、ずいぶん欲張りなものです。

伊賀にはこのほかに、民間の行事と仏教行事とが結びついた県無形民俗文化財である島ヶ原観音寺正月堂の修正会があります。毎年2月11日には豊作を願って正月堂へ練りこむ行事を、翌12日には「ほそのき驚覚法だつたん」「達陀の行法」などの法要を行い、春を呼ぶ行事として親しまれています。

このように、私たちの先祖は新しい年の幸せを祈って、福を呼ぶ習わしを伝えてきました。これらは、地域の歴史の長さや貴重さを認識させてくれる自慢のひとつです。皆さんにとって新年が良い年であることをお祈りしています。

(伊賀市長 岡本 栄)



▲筒御前古墳出土遺物

これらの出土遺物は、当時の生活を知ることのできる資料です。

遺物として、須恵器すえき(窯で焼かれた土器)や土師器ちしき(素焼きの土器)の杯身さきみ、提瓶ていへい、壺かめ、甕かめなどの食器類、直刀ちよくとう、鉄鎌てつがま(鉄製の矢じり)などの鉄製品、耳環みみかざり(耳かざり)などが出土しています。

筒御前古墳出土遺物は、銅鏡1面と筒御前古墳出土遺物は、柘植歴史民俗資料館(入場無料)で展示していますので、ぜひご覧ください。

文化財課
☎ 47・1285
FAX 47・1290

また昭和27年(1952)霊山山頂でテレビ電波中継所が建設された際に経塚が3基発見されました。

経塚は周囲に石を積み上げ小石室とし、石室内中央に壺を置き、その周囲に鏡などを配置して蓋石ふたいしをのせてありました。この経塚から写真の銅鏡が出土しました。

鏡の裏面には2羽の鳥を鈕ちゆう(鏡の中心で紐を通すところ)をはさんで配置した文様を施してあります。花の文様や、鳥の文様などは吉祥文縁起のよい文様とされています。

これらの銅鏡4面が平成元年(1989)4月1日に筒御前古墳出土遺物とともに市(旧伊賀町)の文化財に指定されました。

また昭和27年(1952)霊山山頂でテレビ電波中継所が建設された際に経塚が3基発見されました。

経塚は周囲に石を積み上げ小石室とし、石室内中央に壺を置き、その周囲に鏡などを配置して蓋石ふたいしをのせてありました。この経塚から写真の銅鏡が出土しました。



▲霊山経塚遺跡銅鏡